

赤谷プロジェクト 近況報告

「第1回 赤谷の森フォーラム」 を開催

7月8日(日)に、赤谷プロジェクトの地元であるみなかみ町で、赤谷プロジェクトの活動報告会が開催されました。この「赤谷の森フォーラム」と題した活動報告会は地域の皆さんに赤谷プロジェクトの取組を知ってもらおうと、赤谷プロジェクト地域協議会が中心となり、みなかみ町の後援を受けながら開催したものです。

フォーラムでは初めに、日本自然保護協会常勤理事の横山氏と東京農工大学准教授の土屋氏による「赤谷



「赤谷の森フォーラム」
オープニングトークの一コマです



試験地の更新状況を調査しています
(植生管理WG)

プロジェクトと日本・世界の生物多様性」と題したオープニングトークがあり、世界的な視点から生物多様性をめぐる動きが語られました。

続いて、赤谷ふれあいセンターから「赤谷プロジェクトの科学的取組と豊かな森の再生」として、プロジェクトが現在進めている調査等様々な活動の報告を行いました。

また、地域協議会や日本自然保護協会から、地域の皆さんが参加できる取組として「赤谷の日」や「ムタコの日」(水源の森を大切にすること)、「住民による活動」などの紹介があり、積極的な参加を呼びかけました。

今回のフォーラムは初めての開催でしたが、プロジェクトの発展には地域社会の支援・参加が必要不可欠であり、プロジェクトを地域の方々理解してもらう重要な活動の一つとして、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

植生管理、溪流環境復元ワーキング・グループ(WG)の 現地検討会を開催

植生管理WGでは、伐採指定箇所等を視察すると共に、現地検討会で「赤谷の森」の将来的な目標とする人工林や天然林についてイメージの共有を図りました。また、溪流環境復元WGでは、議論を通して、赤谷プロジェクトの意思が茂倉沢治山事業の設計・施工へ反映できるように要望を取りまとめました。

さらに、これらワーキング・グループの活動と連動してありますが、プロジェクトと外部関係者との連携という新たな活動が始まっています。

具体的には、研究者や大学生が「赤谷の森」を研究フィールドとして利用し調査をしていくこととする動きで、赤谷プロジェクトの活動をさらに深めていくためにも、研究者等の参加を積極的に進めていきたいと考えて



「赤谷の森」に住む野生動物の説明
を聞き入る生徒たち



利根実業高校の環境教育では、センター職員から猛禽類観察手法の説明がありました

利根実業高校生に対する 環境教育を実施

います。

今年も、昨年に引き続き利根実業高校生に対する環境教育を実施しました。利根実業高校は農業系と工業系の専門知識を習得するための実業高校で、新入生は農業系と工業系に分かれて入学し、2年生に進級する際に専門のコースを選択することになっていきます。赤谷ふれあいセンターでは、農業系の専門コースの一つである森林科学コースを選択する際の参考になるよう、1年生80人を対象に20人ずつ4回に分け、当センターの森林環境保全(生物多様性の復元)の取組を解説しました。森林に関わる仕事の一つとして当センターが行っている活動が、進路決定の参考になってもらえればと思います。
(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)